



校友作家の栗井脩介さん(平3文) 『犯人に告ぐ』で大藪春彦賞を受賞

「おめでとう」—校友作家の栗井脩介さん(平3文)が第7回大藪春彦賞を受賞。贈賞式(3月4日、東京會館)には、ミステリー評論でも活躍の権田萬治文学部教授がかけつけ、祝福の握手をがっちりと交わした。

受賞作『犯人に告ぐ』は、連続幼児殺人事件を捜査側がマスメディアを利用して犯人と対決するという異色の「劇場型捜査」ミステリー。「一級の警察小説」(大沢在昌評)と絶賛され「週刊文春」の2004年国内ミステリーベストワンに選ばれた話題作だ。栗井さんは在学中、サスペンス作品を文芸誌新人賞に応募したが落選。講義を受講したことがある権田教授の元に作品を送り、感想を求めた。権田教授は厳しい批評と共に「『古典もの』をたくさん読んでいつか大きな賞を取れ」と返信した。その励まし通りにビッグな賞を獲得した栗井さんと対面した権田教授は「登場人物が生き生きと描かれ、その時々々の社会状況もきちっと盛り込まれている。ち密な調査で一作ごとに新しい手法がこらされている」と栗井作品の特長と面白さを挙げ「自分のペースを守って、さらにその上の賞を取ってほしい」と肩をたたいた。

栗井脩介＝1968年生まれ。99年『栄光一途』で第4回新潮ミステリー倶楽部賞を受賞、作家デビュー。02年『虚貌』で第4回大藪春彦賞候補。他の著書に『白銀を踏み荒らせ』『火の粉』がある。愛知県在住。

”志”を胸に道を開け <栗井さんからのメッセージ>

デビューしてから5年が経過しましたが、地道に作品を積み重ねることにより、だんだんと各方面の評価などに確かな手応えを感じるようになりました。今回、「大藪春彦賞」受賞という幸運に恵まれたのも、そうした流れの中でのものだと受け止めています。デビューして2、3作は、自分で思い描くような世間からの評価は得られず、やはりなかなか簡単ではない世界だなと思ったこともありましたが、今改めて考えてみると、ずいぶん順調に来ているなど気づきました。もちろん自分だけの力ではなく、だからこそ、自分を支えてくれる人たちが一緒になって喜んでくれる文学賞の受賞は嬉しいものです。今のところ、文芸に限らずクリエイティブの業界には、専大出身者がまだまだ少ないんじゃないかという気がしています。それは能力云々ではなく、たぶん志一つの問題ではないかと思います。何かの作品を作り、それが多くの人に渡り、いろいろな反響が返ってくる……そんな仕事に挑戦するのは面白いものですし、十分やりがいもあります。実際にそういう世界で活躍することなど雲を掴むような話に思えるかもしれませんが、小さな努力を重ねて試行錯誤していくことで、何らかの道が開けるものですので、ひそかに夢を描いている人たちは、ぜひ頑張ってくださいたいです。僕も今回の受賞を励みに、自分なりの挑戦を続けていこうと思います。

第5回育友会奨励賞



▲受賞者をかこんで

学生の創造的な企画を助成し、在学中の努力・成果を表彰する「第5回育友会奨励賞」が発表された。今回は、全12件の応募があり、1団体と2人が受賞した。

表彰式は3月10日、神田キャンパスで行われ、大瀬利行会長から賞状と賞金が手渡された。表彰者と対象主題は次の通り(順不同)。

▽体育会ローラースケート部＝『第46回全日本学生ローラースケート選手権大会までの1年—インカレ男子総合優勝・女子準優勝』

▽染谷知臣くん(ネット情報2)＝『情報処理技術者試験テクニカルエンジニアに合格—私の資格合格体験記』

▽鈴木康祐くん(法4)＝『司法試験に現役合格』

※第6回(平成17年度)募集(受け付けは10月1日から)については、育友会ホームページで。

校友会支部だより

< 江戸川支部総会 >

11月3日、小岩の「ニューオークラ」で。本部3人、来賓1人、会員ら39人が出席。中川博氏(昭46商)、武蔵克之氏(昭35法)が司会。川井昭智支部長(昭36法)のあいさつの後、来賓の坂本伴治校友会副会長、平沢勝栄衆議院議員が祝辞を述べた。引き続き議事に移り、会務を承認した。

< 江東支部総会 >

11月13日、江東区の「ホテルイースト21東京」で。本部2人、大学1人、来賓7人、会員ら21人が出席。坂口文哉氏(昭57経済)が司会。進藤暉彦支部長(昭38商経)があいさつ。議事に移り、会務を承認した。

< 山口支部総会 >

11月27日、山口市の「割烹松屋」で。本部1人、会員19人が出席。山懸正紀氏(昭60商)が司会。蔵成幹也支部長(昭43経営)、吉江正春校友会副会長があいさつ。議事に移り、会務を承認した。

< 杉並支部総会 >

11月28日、新宿区の「京王プラザホテル」で。本部1人、来賓3人、会員22人が出席。木梨盛祥氏(昭47商)が司会。西條政支部長(昭25経学)があいさつ。議事に移り、会務を承認した。役員改選が行われ、新支部長に木梨氏が選任された。

< 新宿支部総会 >

12月9日、新宿区の「球寿司」で。本部2人、会員22人が出席。秋野鐵好氏(昭30商経)が司会。都議会議員の富田俊正氏(昭59法)の祝辞に続き、下村得治支部長(昭25経学)、坂本校友会副会長があいさつ。議事に移り、会務を承認。下村支部長の旭日小綬章受章を祝った。

< 33会総会 >

2月6日、箱根湯本温泉「吉池」で。本部4人、会員36人が出席。村田正敏幹事(商経)が司会。小林清校友会長のあいさつに続き、高橋貞雄会計人会会長が「税制改正について」をテー

マに講演。議事に移り、会務を承認した。

校友新社長紹介

(株)インテリジェントウェイブ 山本 祥之氏(やまもと・よしゆき=昭53経営)2月23日
就任。同社はクレジットカード決済システムのリーディングカンパニー。

ようこそ！校友会へ

卒業おめでとうございます。今からあなたも校友会の会員です。専修大学校友会は卒業生相互の親睦と福祉の増進、そして母校の発展を図ることを目的に設立されました。現在卒業生は22万人を超え、300を超える校友会支部が活動しています。年齢や地域・職域を越えた密接な交流を図るために環境整備を進め、母校への支援を推進している校友会のネットワークから新しい出会いの輪を広げてください。支部の詳細についてはホームページをご覧ください。

専修人の新しい本

経済が社会を破壊する 正村 公宏 著

著者によると、日本は経済が危機にあるだけでなく社会が危機の兆候を強めている。産業主義と商業主義が圧倒的影響力を持ち、経済が社会を破壊している。政府とその周辺の専門家の議論は混乱に満ちている。子どもが育つ社会的・自然的・文化的環境が悪化し、人間の資質が劣化し、多くの凶悪犯罪が起きている。

著者は、過去の政府の経済政策・社会政策・教育政策と日本型システムの問題点を根源に遡って検討し、民主制を機能させて有効な政府をつくり、人間がまともに育つ社会をつくるために何をしなければならぬか、わかりやすい文章で丁寧に論じている。(N TT出版、1600円+税)

著者(まさむら・きみひろ)=専修大学名誉教授。

ゼミナール人事労務 廣石 忠司 著

本書は、組織・人事コンサルタントとして企業の現場で制度立案に携わってきた著者が、人事労務を初めて学ぶ経営学部の初学者、ならびに人事労務の実務家を対象として執筆した。

「人基準」から「仕事基準」に転換しようとしている、企業の人事労務のシステムの実情を学部学生が理解することは、社会に出てからどのような心構えを持つべきか、といった自覚を促す意味で大変有意義であると著者は考える。

人事労務担当者は、経営学、法律学、さらに心理学を学ぶことが求められており、この三つの観点が取り入れられている。(八千代出版、2500円+税)

著者(ひろいし・ただし)=経営学部教授。担当は経営管理総論ほか。

日英交流史近世書誌年表 島田 孝右 編

16~18世紀に刊行された英文書籍約1550点を年代順に配置し、日英両国の政治、歴史、文学などの年表を加えて、近世の日英関係と書物史を比較対照できるように構成されている。全体の内容は、1・年号、2・英国、日本他の歴史事項。西洋と日本交流に関する主要な事項、3・日本に関する記述を含む英文書籍の書誌、4・著者あるいは刊行物に関する補足解説、となっている。

日英交流史研究者に必携の書である。(ユーリカ・プレス、税込み9800円)

編者(しまだ・たかう)=商学部教授。担当は英語。

【ニュース専修2005年3月号11面】